

変化する防犯環境と課題

公益社団法人 日本防犯設備協会 特別講師

富田 俊彦



○防犯リーダーの役割

コロナ禍で対面する活動が制限され、会員同士がリアルにふれあい、会話する機会が極端に減って、人と人とのつながりが希薄になったように思います。

毎年開催されていた地域の祭りやイベントなども、ここ数年途絶えてしまい、再開するためには担い手探しから始めなければならず、コロナ禍で失ったものは多く、目には見えない大切なところにまで影響しています。

また、刑法犯認知件数の増加や世間を騒がす新たな手口の犯罪が発生するなど犯罪傾向も著しく変化しており、どの地域でも防犯に携わる人の高齢化による世代交代や参加者の減少、後継者の担い手不足、活動のマンネリ化など防犯環境多くの課題を抱えています。

地域の防犯活動には各分野のいろいろな人が携わっていますが、中でも資格試験に合格し、防犯設備に関する知識と技術を有する専門家である防犯設備士(総合防犯設備士)は、防犯カメラの設置、防犯診断、防犯環境の整備、自主防犯ボランティア活動の活性化を促進するなど、防犯リーダーとして時代の変容に対応した活躍が期待されています。

○最近の犯罪傾向

平成15年以降減少を続けてきた刑法犯の認知件数は、令和4年度は20年ぶりに増加しており、本年上半期も昨年を上回る勢いで増加しています。

最近の犯罪の特徴は、公共の場所で罪のない無

抵抗な市民を巻き添えにする無差別殺傷事件やテロ事件、SNSなどの通信手段を用いて無知な少年を実行犯として募集する闇バイト強盗事件や特殊詐欺事件、急激に増加しているサイバー犯罪、子どもや女性が被害者となる虐待やストーカー、性犯罪などの事件が相変わらず多発して、国民に不安を与えていました。一方では、キャッシュレス化が進んだことで、現金を狙う、すりなどの事件が減少しており、犯罪の発生傾向も複雑化する世相を反映して、統計上の数字だけでは現れない変化が見られます。

最近の犯罪者に共通していることは、人とのつながりを避け、社会から孤立して、人生に失望し、やけっぱちになって安易に犯行しているのが気になります。

○担い手不足

警察庁のまとめによると令和4年度の防犯ボランティア団体の団体数は45,106団体、構成員数は2,428,679人で、ともに前年度に比べ減少傾向にあり、構成員の平均年齢は60歳以上が約7割を占めています。

今まで、地域を支えてきた自主防犯ボランティアの人達は高齢による体力の衰えや病気、家庭事情などの理由で活動を辞めざるを得ず、どの自治体でも欠員補充が難しく、担い手不足が大きな課題になっています。このまま防犯の担い手不足が進めば安全・安心街づくりを推進する歯車の回転が止まりかねません。

現在は無縁社会と言われていますが、この世は、人と人がつながりあって成り立っていることを再認識し

て、日頃から地域の人達が世代を越えてお互いを理解し、励まし、支え合い、皆で知恵を出して安心できる街づくりを推進しなければなりません。

○見守り活動の課題

私が所属する地元のスクールガードの会員の中には90歳の高齢男性が現役で、毎朝、元気に見守り活動をしています。

名もないこの人達の地道な努力によって、日本の安全が保たれていることを忘れてはなりません。しかし、この地域で欠員が出た時も次の担い手がなかなか見つからず困っています。子どもの見守り活動を高齢者に任せ放しにすることなく、活動の見える化を図り、高齢者が自分で頑張れる範囲内で参加できるように活動の幅を広げることが必要です。

今まで自分がやらなければ地域は何も変わらない、他人には任せられないという強い思いで、対価を求めず、黙々と防犯活動してきた人達に対して、地域の皆で感謝の気持ちを示して、モチベーションを維持してもらるべきです。

担い手不足等の問題を解決するためには、全てを自治体任せにせず、課題を先送りにしないで、地域住民が皆でアイデアを出し合って、現役世代の人や若い人の意見や提案を積極的に取り入れて、次世代の、新しい感覚を持つ若者に活動する場と機会を与えて、リーダー意識を持たせて自分で出来ることをしっかりやってもらい、経験豊富で時間に余裕のある高齢者がそれをサポートして後継者の育成に努めなければなりません。

共稼ぎ世帯が増加する環境の中で、今まで通りの方法で子どもの安全を確保することは難しくなっています。学校、保護者、警察、自治体などの関係者が協働して、通学路の危険個所をチェックし、登下校時の子どもの位置情報を把握するために防犯カメラの設置や無線通信機能を備えた見守り端末を利用した追跡装置、GPSアプリなどを有効に活用して子どもを見守りやすい環境を整えることが求められています。

○時代に対応する防犯のプロ

急激な社会情勢の変化によって、物がインターネットに繋がり、ビックデーターとAI（人工知能）が連動し、目覚ましい情報通信技術の発展など進化し続ける技術の恩恵を受けて、大きく変化する防犯環境の中で、防犯設備士（総合防犯設備士）は、地域に根差した防犯のプロとして、時代の流れを汲み取り、新たな手口の犯罪を迅速・的確に把握して情報を共有し、専門的な知識と経験に裏付けられた技術を駆使して、警察、自治体、関係機関団体と連携して、誰もが安全で安心して暮らせる社会にしなければなりません。



（見守り活動の状況）